

第3回トンボ池等湿地環境再生検討会 議事要旨

日時：平成22年10月5日（火）13:30～15:30

場所：水辺共生体験館 セミナー室

1. 開会

2. 挨拶

3. 審議事項

下記の審議項目に対し、事務局より内容等の説明を行い、以下のような主な意見を頂いた。

<審議項目・説明内容>

1) 最近の動き

2) 平成21年度の再生対策の報告

3) 平成22年度調査計画および速報

4) トンボ池等の再生対策、モニタリング計画

5) その他

<委員の皆様の主な意見>

1) 最近の動き

- ・ 笠松町にはたくさんの小学校があるので、多くの学校がヤゴの放流に参加できる運動をしていけると良い。
- ・ 下羽栗小学校のトンボ池クリーン活動は素晴らしいことであり、今後も継続して欲しい。

2) 平成21年度の再生対策の報告

3) 平成22年度調査計画および速報

- ・ 竹林を伐開して、環境が大変良くなった。
- ・ 例年11月頃にはトンボ池の中下流側が干上がるが、この1,2年は、水が多く干上がっていない。今年は、水が茶色く感じる。
- ・ ヒメボタルが堤防を越えて堤内地に飛んできている。昔は多かったが今は少ない。
- ・ 環境省の研究では、沈水植物と周辺に樹林があるとトンボの種数が多くなるという報告がある。トンボ池でも、その方向の再生対策となっている。

3) トンボ池等の再生対策、モニタリング計画

- ・ トンボの生息環境には、水域、水生植物、周辺環境が重要である。
- ・ シードバンクによる水草再生では、水草を1回再生させてから、もどした方が効率がよいと考えられる。
- ・ シードバンクによる水草再生では、水草を学校ビオトープで育ててもらおうなどの連携ができるとうい。
- ・ 地域が参加したヤゴの調査が望ましいが、深いところもあり危険である。

- ・ モニタリングは継続することが重要であり、トンボの種数を見ていくのが良い。
- ・ 堤防周辺の竹林伐開後の処理について水路（栗石の敷均有り）を造っているが、効果が知りたい。土砂止めとして効率的なことを考えれば、植生をそのまま再生でも良いのではないかと考えられる。維持管理の上でも経費が必要となるのではないか？
- ・ 維持管理を含めて、地域や河川公園等との連携が重要であり、トンボ池等の再生は地域を巻き込んで実施していく必要がある。その意味で、広報の取り組みも重要である。

4. その他

＜今後の予定＞

第4回を平成23年度に予定している。

5. 閉会

以上